

PHJ NEWSLETTER

ピープルズ・ホープ・ジャパン
ニュースレター

CONTENTS

国際保健のとびら

「国際協力におけるマネジメントについて」

今号の先生：

順天堂大学 医療看護学部 准教授 岡本美代子

支援のかたち

SUNTORY 寄付型自販機：

導入事例 横河商事株式会社様

海外事業

「地域とともに」

カンボジア：保健行政区と協働して次年度の計画を立案

ミャンマー：タッコン郡保健局との活動成果と計画の情報共有





地域とともに

東南アジアのなかでも妊産婦、新生児の死亡率が高いミャンマーやカンボジアで、PHJは母子保健サービスを強化し、妊産婦や乳幼児の健康を支える活動をしています。これらの活動を根づかせる——
 そのために、行政をはじめとする人たちと協力しあい、支援地の人々が主体的に動ける仕組みづくりを模索しています。

Cambodia



Myanmar



Japan

保健行政区と協働して 次年度の計画を立案

カンボジア

カンボジアでは現在、コンポンチャム州ストウントロン保健行政区のマネジメント能力、保健センター運営、村人の知識などの向上を図り、母子保健サービスの質向上と利用を促進すること、で、現地の人々の健康に寄与できるように事業を行っています。
 この国の保健システムにおいて、地域医療の柱である保健センターは保健行政区の指導監督の下で運営を行っており、その機能を恒常的に維持するためには保健行政区マネジメント能力強化は必要不可欠な要素です。
 しかし現状は、行政官であっても多くの人はマネジメントの知識が乏しく、



事業立案、実施、評価と見直しを体系的に管理できません。そこでPHJでは順天堂大学岡本准教授を招き、保健行政区スタッフと共にワークショップを行いました。その中でマネジメントの基礎となる考え方を学んだ上で、現行の行政区の年間計画を土台とした修正案作成を支援しました。
 これらの作業を通じ、保健行政区スタッフは具体的なマネジメント方法を理解しましたが、学んだことを定着・発展させるためには「練習を繰り返す」ことが大切です。保健行政区長は修正案の内容を生かしながら実際の計画を再考案し、PHJと連携を密にして各種活動を開始しています。PHJは今



保健行政区スタッフと次年度計画を作成

後も保健行政区の年間計画の進捗状況確認や活動支援を通し、彼らのマネジメントスキル向上と自立を支援していく予定です。
 (PHJカンボジア事務所 プログラムマネージャー 福島菜見子)

VOICE

保健行政区長のメッセージ

「保健行政区の管理職のスタッフにこのようなマネジメント能力向上のための研修を持つことができ、PHJに大変感謝しています。今回の学びを通じて保健行政区の事業を改善させていきたい、と考えています。」

副区長のメッセージ

「PHJはコンポントム州での成功経験を持っています。ストウントロン行政区でもその成功経験を活かしてほしいと思います。」



他の保健行政区とともに視察

ミャンマー

タッコン郡保健局との 活動成果と計画の情報共有

ミャンマーでは、2014年8月からネビドー管区タッコン郡において母子保健改善事業を行っています。この事業では「搬送システム強化」「医療施設建築及び医療機器支援」「助産師・補助産師技能強化」「地域母子保健教育支援」の4つの柱で展開しています。
 今年は今期のプロジェクト最後の年でもあり、タッコン郡保健局と保健局を管理・監督するネビドーカウンシル*



ネビドーカウンシルのスタッフとの会議



のネビドー公衆衛生局と共にワークショップを行いました。このワークショップの目的は、カウンターパートである政府職員とPHJの今までの活動と成果の共有を行うこと、それを踏まえての次期プロジェクトの計画に関して助言を頂くことでした。

私たちが問題意識を持っていても、主体である彼らの判断が重要となります。いくら政策で提言していることであっても、現状には全く即していません。それが住民や、その政策の役割を担っている現場で働く人たちの実情を反映していないことから起こっていると考えられます。本当のゴールは私たちが撤退した後も現地の人たちの力でプロジェクトが続くことです。そのために、私たちは現場の意見に常に耳を傾け、協働していくことを心がけています。

VOICE

Dr. Tun Tun タッコン郡保健局長

PHJがタッコン郡と保健局とネビドーカウンシルと一緒に行ったワークショップは素晴らしいものでした。PHJの今までのプロジェクトの報告と次期プロジェクトの計画を共有できたうえ、タッコン地域の母子保健問題をあらためて認識できたからです。

タッコン郡の人々と保健局にとって、PHJの活動は有益で支えになっていきます。たとえば、サブセンターの建築や医療器材の供与、自宅出産から施設分娩への移行を促進し、居住する助産師に安全で快適な場所を提供できます。補助産師の再トレーニングは非常に有効ですし、母子保健教育は妊産婦の健康知識の向上による行動変容と健康状態の改善を期待できます。PHJのプロジェクトを持続可能なものにするためには、コミュニティの人々の意識とオーナーシップの考え方が重要です。





再建された石巻市立病院

4月20日から22日まで、東日本大震災の被災地を訪問しました。最初に訪れた石巻では、全壊した市立病院が昨年の秋に石巻駅前に再建され、PHJが寄贈したドクターカーが使われていました。その後、石巻市役所の健康部とドクターカー導入でお世話になった開成仮診療所の長先生を訪問。復興の現状を伺いながらこれからの支援について相談し、市と市立病院でリハビリ医療器具や超音波診断装置といったニーズがあるこ

気仙沼・石巻
東日本大震災支援

包括ケアや
コミュニティの支えに

とがわかりました。また、石巻市を「包括ケア」のしくみを実践する日本のモデルにしたいが、理解や協力が得られず苦慮していると話してくださいました長先生。少しでもお役にたきたいという気持ちが高まりました。次の日に訪問した気仙沼市役所ではDVDプレーヤー50台の寄贈式を行いました。これらは、集会施設などへ来る高齢者たちがビデオを見ながら健康体操などを行うのに使われます。その後プレーヤーが配布される大浦公会堂と大谷漁村センターを訪問し、新しいコミュニティづくりをめざしている世話役の方々から話を聞くことができました。震災から6年目を迎え、関心が薄れていく中で、PHJは復興はまだ道半ばという認識のもと活動を続けます。

新地区谷



大谷漁村センターでのDVDプレーヤー寄贈式

【PHJ東京事務所 東日本大震災支援 横尾勝】
タイHIV/AIDS予防教育の学び
2016年もHIVサポートリーダー研修会で講義を実施
2011年より大阪看護協会とHIVサポートリーダー研修会（厚労省エイズ補助金事業）に講師として呼ばれ、年に2回、PHJタイのHIV/AIDS予防教育の内容を紹介する講義をしています。昨年は6月と10月に講師として出張してきました。講義では、HIVの感染拡大を体感する「水の交換」、あなたがイメージする「性」を粘土で表現するワークショップ、タイの学生が作ったHIV/AIDS予防啓蒙の映像の上映を行いました。日本と比べて性に対してオープンなタイという国のピア教育は、性教育に対して保守的な日本で受け入れられるのか？そんな疑問をもっていました。そこで講義後に受講生（看護師、保健師、助産師など）に感想を伺ったところ、直接的な言葉を使わないワークショップは日本の現場で実践しやすいというコメントが多く、水の交換も粘土も好評



タイのHIV/AIDS予防教育プロジェクトの記録
PHJタイのHIV/AIDS予防教育のカリキュラムの内容を、活動の記録としてまとめた冊子ができました。タイの大学や高等専門学校でピア教育を行う上で活用していた実際のマニュアルのようなもので水の交換や粘土ワークショップ以外にもカウンセリングについてなど具体的な内容が盛り込まれています。1000円のご寄付の御礼に一冊さしあげます。ご希望の方は info@ph-japan.org までご連絡ください。



粘土作品の一例：多様な性を様々な色のハートで表現

【東京事務所 広報室 南部道子】
でした。

国際協力の
“マネジメント”を知ろう。

今号の先生：順天堂大学 医療看護学部 准教授 岡本美代子

順天堂短期大学で看護学、千葉大学で看護学士を修得、看護師、保健師資格取得。Tulane 大学 MPH（公衆衛生学修士）。名古屋大学 PhD（医学博士）。PHJ 運営委員。ベトナム、カンボジアを中心に地域保健行政の支援事業で地域保健マネジメントを実践された経験もあり、現場と教職の双方の視点を活かして活躍中。



昨年の12月、PHJカンボジアの支援地の保健行政区スタッフのマネジメント能力強化を指南して下さった岡本先生に「マネジメント」について伺ってみました

PHJ Q1

国際協力における「マネジメント」とは？



好評だったマネジメント能力強化の講義

岡本先生 A1

2つの側面があり、1つめは国際スタッフが中心となってプロジェクト運営を行う「プロジェクト・マネジメント」。2つめは国際スタッフによる現地スタッフへの「マネジメント力の向上支援」で、さきほどの“プロジェクト・マネジメント”のノウハウを現地へ適合する形で移譲し、自律したマネジメントを継続させること。技術を伝え根付かせる国際協力において不可欠な要素といえます。

PHJ Q2

マネジメントをスムーズに進めるには？



保健行政区スタッフと（左から3番目が岡本先生）

岡本先生 A2

文化もあり、一人ひとりのプライドがあるなかで、マネジメントを進めるのは、難しいです。拒否反応だけです。少しずつ人間関係を築きつつ、本音を聞き出し、調整するといった作業が必要です。事前にカウンターパートと信頼関係を築いたり、キーパーソンと事業の内容を共有することも大切です。

PHJ Q3

マネジメントにおいて大切にすべきことは何ですか？

岡本先生 A3

1つ目は、コミュニケーション。誤解が生まれないように雑談をしたり、徹底して真摯な態度で接します。食や衣服など現地の文化に関心を示すことで、人との心理的な距離が近くなります。
2つ目は、相手の文化だけでなく、自分の文化も愛すること。日本の文化を理解したり郷土に愛着をもつことは、活動する地域への愛や理解にもつながるのです。
3つ目は、相手を信じて成長を「待つ」。マネジメントを実践し、経験を積んでいく過程には時間が必要です。一步一步、長い道のりを励ましあいながら共に歩む気持ちが大切です。

PHJ

相手を尊重すること、同時に自分の文化を理解することなど、普段のコミュニケーションにおいても大切なことがたくさん詰まっている解説でした。岡本先生ありがとうございました。



2016年はPHJ東京事務所
で二人のインターンさんが働い
てくれました。広報の通常業務
をはじめ、イベントのお手伝い
など様々な仕事をサポートして
もらいました。今年の3月、4
月にそれぞれインターンを修了
お二人に感想を書いていただき
ました。

PHJ 東京事務所の
インターン生2名が修了



PHJ
の
輪

◆ 佐藤唯衣さん
インターンを通して、「PHJを継続的に支援し
ていただき、PHJが途上国の母子保健を継続
的に支援する」ということの必要性和難しさを
肌で感じました。
PHJでのインターンは学ぶことが多く、そし
てスタッフみなさんがとても優しく面白
いので、毎回楽しく働かせていただきました。P
HJの温かい支援がずっと続くことを願ってい
ます。半年間、本当にありがとうございました！



◆ 佐藤唯衣さん

PHJの皆さんが共通して活動地の問題を解
決したいという熱意を持ってお仕事されてい
る姿がとても格好よく、インターン中は常に
刺激を受けていました。PHJのインターン
ではたくさんを経験させていただきました。
『人』があつてこそそのNPO団体、PHJで
あり、PHJに関わる全ての『人』の大切さを
学びました。これからは学問に加えて人とし
ても成長できるよう頑張ります。今までありが
うございました。



◆ 国井紗希子さん

サントリービバレッジサービス株式会社様

寄付型自販機

PHJの
支援の
かたち

PHJでは2012年から、ドリンク1本につき約2円の寄付が
できる寄付型自販機を通した募金を始め、100台の自販機を
50社以上に設置いただいています。開始当初からの募金を
合計すると2017年5月末で323万1,889円にのぼります。寄
付型自販機の提案をくださったのは、サントリービバレッ
ジサービス株式会社のお都圏営業本部 広域開発部 部長代
理 望月祐也様。オフィスに自販機を設置するだけで売り上げ

の一部を寄付できるため、設置企業様も従業員の方も普段
から気軽に社会貢献できるという魅力を説明いただきまし
た。時を同じくしてPHJ 賛助会員企業の担当者様より社内
での自販機を寄付型にしたい、とのうれしいお申し出。2012
年9月、菱洋エレクトロ株式会社様が寄付型自販機第一号
を設置いただきました。以来、さまざまな企業・病院様より
設置にご協力いただいています。



「オフィスでいつでも社会貢献できるコトを探していました」

寄付型自販機導入事例：横河商事株式会社様

導入時期：2013年2月

導入数：本社2台、名古屋支社2台



横河商事株式会社様は、本社に2台、名古屋支
社に2台、計4台の寄付型自販機を設置いた
だしています。PHJから寄付型自販機を提案した当時、オフィスで気軽に社会貢献をした
いとできていたとすることで、即、導入を決断。さらに担当の 総務人事部 総務課長 牛田
浩一様は少しでも貢献したいとの思いから、消費増税による価格の引き上げを機にドリン
ク1本につき約2円だった寄付を5円にあげていただきました。PHJは皆様のお気持ち
に支えられている——自販機を通してそんなことをあらためて実感しました。



牛田浩一 課長とPHJの寄付型自販機

PHJの寄付型自販機の導入をお考えの団体様はお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先：メール info@ph-japan.org あるいは 電話：0422-52-5507 担当：北島

海外事務所へ新しい
スタッフが入りました！



ピョー・ミン・トゥ
PHJミャンマー事務所
プロジェクトオフィサー



Q：PHJでどの
ような仕事をしてい
ますか？

A：母子保健教育の
定期的なモニタリン
グと評価、母子保健
ボランティアのトレー
ニングの計画と実
施、サブセンターの
患者数の統計処理、
母子保健関連の文書
の翻訳を行ったり、
各会議の議事録の要
約を行ったりしてい
ます。

Q：仕事でやりがい
を感じるのとはどん
なときですか？

A：行政職員の人
たちとトレーニング
やミーティングを計
画し、実行した時
です。また、母子保
健教育を通して地
域の人々の知識が
向上したり、彼ら
が喜んでる姿を見
た時です。

Q：事務所の雰囲気
はどうですか？

A：雰囲気はいい
です。もう少し時間
がもたれば、所長
と話せたら自分の
英語も上達す

ソパール
PHJカンボジア事務所
プロジェクトアシスタント



Q：PHJでどの
ような仕事をしてい
ますか？

A：PHJで働き
はじめて3か月が
過ぎましたが、現
在は支援対象の3ヶ
所の保健センター
の機能強化活動や
地域での保健教育
に携わったり、プ
ロジェクトのコー
ディネイトをして
います。

Q：仕事でやりがい
を感じるのとはどん
なときですか？

A：自分に任せら
れた業務をやりき
ったときです。
Q：事務所の雰囲
気はどうですか？
A：とてもよい
と思います。スタッ
フはみなフレンド
リーですし、オフ
イスも大きくて
明るいので快適
です。

Q：仕事上でのあ
なたの目標を教え
てください。
A：自分が果たす
べきことをしっか
りこなしていきたい
です。

PHJのお知らせ掲示板

カンボジアの安全なお産応援募金

目標達成まであとおよそ 50 万円!

PHJカンボジア事務所では、安全なお産に不可欠な保健センターでの妊婦健診、出産、産後検診、乳児健診の定着化を目指して、奨励ギフトセットの配布を行っています。

**【保健センターで出産し、
その後も産後検診のため訪問したお母さん】**



「保健センターで出産したのは安全で何かあったらすぐに病院に搬送してもらえるからです。」

この活動を支援するため、1500円のご寄付で、一人の女性に安全なお産と産後をサポートする奨励ギフト2つを届ける募金を2017年2月15日に開始しました。目標金額100万円のところ、5月末までに個人や企業の募金を合わせて49万円が集まりました。この場を借りて御礼を申し上げます。目標金額まで、およそ50万円ですので、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

募金方法

ご寄付いただく場合はお名前、住所、電話番号を info@ph-japan.org までお知らせいただき、下記振込先にお振込みください。

- ・口数：1口 1500円
 - ・振込先：みずほ銀行 三鷹支店（普通）
4370706 特非）ピープルズ・ホープ・ジャパン
- ※ PHJ のホームページからもご寄付いただけます。

カレンダー募金の報告と 2018年カレンダーの進捗

PHJのチャリティカレンダー2017のご寄付は、2017年1月末までに、3,184,242円が集まりました。皆様のご協力に感謝いたします。



2017年のグローバルフェスタ

2018年のチャリティカレンダーも前年と同様に干支の動物をテーマに、カンボジアと日本、今回はじめてミャンマーの子ども達に絵を描いてもらっています。どうぞお楽しみに。



絵を描くカンボジアの小学生：2017年1月

PHJ bulletin board

編集後記

普段はなかなか伝えられない、国際協力における地域とのつながりの重要性についてを紹介しましたが、いかがでしたでしょうか。岡本先生が大切にしている相手を尊重するコミュニケーションは、ローカルなビジネスにも通ずるものだと感じました。本誌に関するご意見・ご感想などありましたら、info@ph-japan.org までお気軽にお知らせください。

発行：認定NPO法人 ピープルズ・ホープ・ジャパン

発行責任者：廣見公正 編集人：南部道子 発行日：2017年6月12日

連絡先：〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32 TEL:0422-52-5507 FAX:0422-52-7035

ホームページ：<http://www.ph-japan.org/>

本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。